

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101901		
法人名	有限会社 ムツミサプライ		
事業所名	グループホーム たらみA棟		
所在地	〒859-0401 長崎県諫早市多良見町化屋1235		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、ご家族にも協力いただき、家庭的なあたたかさの中、表情豊かに生き生きと明るく暮らしていけるよう努めている。また、その人らしさや個々の能力に応じて、個別的な支援を心がけている。高齢で、認知症以外の疾病も持っておられるため、医療面でも協力病院との連携体制を充実し、できるだけ安心していただけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは幹線道路からほど近い場所にあるが静かな山あいの風情があり、折々の季節を感じながらの暮らしができています。地域の信頼の厚い協力病院と密接な関係があり、また職員に3名の看護師を配置しており、入居者や家族は健康管理面に対しての安心を得られている。芝生の広い中庭があり安心してゆったりとした時間を楽しみ、レクレーションをおこなうことができ、中庭を取り囲む建物内の回廊は天候に左右されず自由に歩行できる生活リハビリの場となっている。職員は明るく温かく、手作りの家庭的な食事を提供している。タペストリーやクッションなど布の温もりを感じさせる小物が飾られ入居者は和やかに暮らしている。施設長が代わられたが業務の質は以前と変わりなく、今後は地域との交流や自治会参加など視野に入れながら新たに取り組んでいかれるという前向きな姿勢に、地域密着型ホームとして更なる発展を期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護とは我が年老いた母を背負うが如く、父の手を引くが如し」を理念におき、住みなれた地元で家族的なサービスを心がけている。	独居でいた方には家族として接し、寂しさから身体面が不調になられる場合も考慮して寄り添う支援をもって心身の安定をはかっており、入居者の心を受け止めながら自立に向けた支援をおこなっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の学生の実習やボランティアを受け入れ、若者とふれあう機会としている。また、散歩や買い物などに出かけ、地域の方と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。	入居者を第一に考え支障がないように実習やボランティアを受け入れている。ピアノの演奏を聞いたり、一緒に書道をしたり楽しい時間となっている。地域の方がギターコンサートに来てくださったり、日常的に近くの観音様までの散歩をし、お供えを出すなど地域の方との交流がある。	地域の方との連携が地元自治会など通じて増し、認知症対応型施設として更なる理解を頂けるように、今後の新たな地域へのアプローチに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、地域の民生委員さんへも参加してもらい、認知症の方の理解を深めてもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果と共に、改善計画についても意見してもらい、より良いサービスが提供できるよう努めている。	運営推進会議はメンバーをある程度固定化して、内容の充実した会議としている。ホームからの報告の他、リビングの椅子の改善についての意見や入居者が喜ばれる子供たちとの触れ合いの機会を作ってはどうかなどの意見をいただき、子供たちとの交流については参加者より実現可能との返事をいただいた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所運営における色々な相談事項も、電話や窓口へ出向いたりして、問題解決へ向けて協力を得ている。	市役所の前担当者と同様、引き継がれた現担当者ともなんでも相談できる良好な関係が築けている。情報をいただいたり、スプリンクラー設置の件などを相談することができた。地域包括支援センターには成年後見人制度について相談している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修には毎年参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全面からオートロック式となっているが、入居者の様子に応じて開放している。	オートロックについては家族の方からは安心との声もいただいているが、暖かい季節には事務室からの見守りのもとでドアを開放している。また拘束の必要な状況を作りださないよう、入居者の様子に敏感に対応し、目が離せない状況の時にはお手伝いをお願いして一緒に行動するなど工夫している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会に参加したり、各々の介護の仕方についても、カンファレンス等で情報交換し、適切なケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等については、運営推進会議でも取り上げ話し合う機会を設けた。必要な時は、社協の担当者に相談したりしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ケアに関する考え方や取り組み、重度化した場合の医療との連携体制等説明し同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時は、利用者の状況を報告すると共に、要望等話を聞くようにしている。	面会、訪問時に要望などを伺い記録している。夏祭りや運動会などの行事がおこなわれる際に多くの家族に来ていただき、たくさんの意見が頂けるよう曜日や時間帯を工夫することを考えている。また、居室の管理についての御意見をいただいて居室担当を作った。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを設け、意見を聴くようにしている。	月に一回開かれるカンファレンスで意見を聞き反映できるよう話し合っている。また、それを受けてユニットごとの会議でも関連な意見交換をして支援に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の間人間関係を把握したり、職員の良い所を活かし、やりがいをもち働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は掲示しているが、希望者も少なく計画的な研修参加はできていない。今後は、なるべく多くの職員が受講できるよう計画していきたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会にはできるだけ参加してもらい、他事業所の活動を学んだり、サービスの向上に活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族との事前面談で、生活状態を把握するよう努めている。他の事業所へも情報提供を依頼し、早く理解できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、ゆっくり聴くようにしている。必要であれば他の事業所の情報提供をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合、可能な限り柔軟な対応ができるように心がけている。他のサービス機関の情報も提供し、できるだけ早く必要なサービスが受けられるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者に寂しさがあれば励まし、不安があれば話を聴いて、不安を取り除くよう努めている。また、利用者の笑顔や温かさに触れ、元気をもらっている事が多い。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の出来事や気づきの情報共有に努め、家族と一緒に支えていけるよう心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室に行ったり、毎月決まった日に、理容院に行く習慣を続けたり、できるだけ一人ひとりの生活習慣を尊重するようにしている。	かかりつけ医への受診が、病院内で地域の馴染みの方とお会いできる機会となっている入居者は多い。独居の方の家を見に行くという支援もおこない、一般の方に認知症の理解が得られていないことがあるため馴染みの人や場の支援が難しい方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係については職員間でも情報交換し、全員が把握できるようにしている。心身の状態や気分の感情で毎日変化するので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方でも、病院を訪問し経過をみている。また、家族の方がホームに遊びに来られ状況を話されることもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時より情報を集め、思いや全体像の把握に努めている。言葉や表情、態度等から真意を汲み取り、思いに添った介護ができるよう、心がけている。	入居前の見学のときから思いや意向の把握に努めている。自宅や病院も訪問し顔を合わせてお話し、一番いい状況で入居していただけるよう環境を整えており、この過程で職員に馴染んでいただくことで、入居後の思いの把握の助けとなっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅に訪問したり、本人や家族から詳しく生活歴を聞いている。入居後も情報収集に努め、記録に残し、職員全体が理解できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日をどのように過ごされているか、表情や心身の変化に注意して観察している。また、残存機能を活かした介助を心がけ、必要以上に手を出し過ぎないようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞いたり、毎日の関わりの中で、気づいた職員の意見や思いを、介護計画に活かしていくよう努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテで全体の状態把握ができるよう記録するとともに、一日のワークシートで、全ての職員が連携した実践ができるようしている。	家族の意見や要望や職員の気づきをサービス会議で取り上げ、プランを作成しモニタリングをおこなっている。プランは、毎月一回のサービス会議において居室担当職員の個々のやりとりにより捉えた本人、家族の意向を盛り込み、計画作成担当者が作成している。一週間毎の目標達成の状況を記録し、状況把握に努めている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に合わせ、急な外出や外泊、特別な医療機関の受診等、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、民生委員や地元の有識者に参加していただき、協力を得ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他希望に応じ、以前からのかかりつけ医での医療が受けられるようにしている。状態に応じて専門医の診察を受けたり、協力病院の主治医と協力し、24時間体制での対応を行っている。	かかりつけ医である協力医院への受診支援をおこなっている。往診の対応もあり、入院した場合は短期間でホームの生活に復帰できるように協力医院との連携のもと、ホームにおいての点滴といった対応も看護師である職員により可能としている。他科受診は家族支援をお願いしている	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職3名通常のシフトに入り、日々の介護にあたっている。健康管理や状態変化に応じた支援と共に、他の職員へ専門的指導もを行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院は主治医と話し合い、最低限度の入院に努めている。協力病院とは、情報交換を密にし医師の協力を得ている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対しては、利用者の状態に応じて、本人、家族、医師、職員で充分話し合いできるだけ要望に添えるよう心がけている。	看取りについては、本人、家族の意向の上で、主治医が医療機関での対応の必要性が薄いと判断された場合は支援に努めるというホームの方針を明文化している。方針のもとに三者間での話し合いを随時行ないながらとしているが、現在までに事例はなく、医療機関へ移行されることがほとんどである。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム連絡協議会による、救命救急法の講習会には、交代で全職員が参加できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消化器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	夜間を想定した避難訓練をおこない、消火器を使った初期消火の訓練などにも参加している。地域の方に参加していただいた避難訓練はまだおこなったことはないが、ホーム近隣にお住まいの入居者家族からは協力が得られ心強い。3月中にはスプリンクラー設置完了の予定である。	火災時はもちろんのことその他、地震などの自然災害時の避難後も想定し、入居者についての重要な必要最低限の情報がまとめられた非常用持ち出しファイルを用意すること等も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや言葉かけは、一人ひとりの誇りを尊重し、対応は常に注意している。	内部研修において業務の振り返りと統一した支援に向けて確認をおこなっている。トイレ誘導の際は、羞恥心や周囲の第三者へ配慮して、言葉かけの仕方や声の音量に注意しており、「じっとして」等の拘束的な言葉を使わないことや、入居者同士が不穏な場合の双方への言葉のかけ方など配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて、声をかけ意思表示が困難な方は、表情を読み取ったり、反応を注意深く見るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに合わせるのではなく、入居者のペースに合わせ、無理強いせず、ゆっくりとした気持ちで自由に過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んで着用してもらったり、時にはお化粧をしたりして、毎日、生き生き楽しく過ごしてもらおう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞きながら、一緒にメニューを考えたり、野菜の収穫、食材の買い物、調理、配膳、片付け等利用者と共に行い、食事が楽しみなものになるよう心がけている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックし記録している。利用者の状態に合わせて、量や形態(キザミ・トロミ等)を調整している。食欲が低下している時は、好きなものや食べやすいものを出すようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声をかけ見守りし、できない方は口腔ケアを介助している。義歯の方は、夜間は必ずはずし、ポリドントにて洗浄消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者に合わせて、排泄時間を記録し、トイレ誘導を行い、日中の紙パンツ、パット使用を減らし、利用者の排泄の自立に向けて支援している。	夜は転倒防止のためポータブルトイレが使われている入居者もいるが、観察による適切な誘導とリハビリの効果によりトイレを使用されるようになった入居者もいる。また、ご自身による衣服の着脱など自立に向けての支援をおこなっている。夏は蒸れ防止の意味もありできるだけ布パンツを使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄のチェックにより、薬の調節、水分補給などを行っている。便秘時下剤の使用、看護師による摘便などの処置を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時の利用者の体調、表情を観察し、無理強いをせず、一人ひとりが気持ち良く入浴できるように会話したり、介助をしている。	週3回の入浴支援の他、状況によりシャワー浴や清拭にて対応している。入浴拒否傾向のある入居者には対応する職員を代えたり工夫した言葉かけをし、御希望があれば好みの時間帯や入る順番など考慮している。入居者同士お二人で仲良く入浴されたり、見守りの職員との個別の会話タイムとしたり、楽しむ支援もなされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の状態を見て、利用者に合わせ休息したり、運動をさせたりして安眠出来るようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように確認を重視し、一人ひとりの目の前で開封し服用させている。薬の処方、効能、副作用等の説明書はカルテに保管し、職員が分かるように徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に来る日常生活の仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外庭に出たり、体調に合わせて近くの観音様まで散歩に行ったりしている。希望時は、買い物にも同行し、行事として菖蒲見学、外食なども行っている。	ファミリーレストランや大型ショッピングセンターなど入居者が興味をもたれる場所に出かけたり、いも掘りや大村公園に菖蒲を見に行くなどその季節ならではの外出を支援された。多良見町の文化祭見学や、近くの神社での初詣など地域に密着した外出もおこなった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額であっても管理する事で安心感、満足感を持って頂けるよう支援している。また、多くの利用者は、事務所の預かり小遣い帳にて管理し支援してる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書が届くと喜ばれるので、返事を書く様支援している。また、電話をかけた時、かかってきた時は嬉しそうに笑顔で話をされている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く過ごして頂ける様、季節に合わせてお花を飾ったり、入居者と一緒にフロアの飾り付けをしたり工夫している。	回廊や中庭など自由に安心して歩きまわれる空間があり、ソファや椅子も随所に配置され入居者は思い思いの時間を過ごされている。リビングダイニングは落ち着いた色合いで家庭的な温かみがあり、窓の外の芝生や木々が穏やかな自然を見せている。玄関前等の改修工事も近日中におこなわれる予定で安全への配慮もなされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	芝生を敷いた中庭では、緑に触れあったりベンチでゆっくりくつろがれている。玄関フロアに椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い者同士で語らいができる場所を工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真を置いたり、使い慣れた物、愛着のある物等を置き、利用者が居心地よく過ごせる様工夫している。	備え付けのベッド、ソファ、使いやすい大きなクローゼットが機能的に配置されている。ベッドヘッドを好みの小物で飾ったり、服が好きな入居者はパイプハンガーにたくさんの服を並べて毎日のコーディネートを楽しまれるなど思い思いの居室づくりをされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動出来る様、リビング他共同の場所に手摺を設置している。また、大きな字で表示したり、目印をつけ場所がわかりやすいよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101901		
法人名	有限会社 ムツミサプライ		
事業所名	グループホーム たらみB棟		
所在地	〒859-0401 長崎県諫早市多良見町化屋1235		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護とは我が年老いた母を背負うが如く、父の手を引くが如し」を理念におき、住みなれた地元で家族的なサービスを心がけている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の学生の実習やボランティアを受け入れ、若者とふれあう機会としている。また、散歩や買い物などに出かけ、地域の方と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、地域の民生委員さんへも参加してもらい、認知症の方の理解を深めてもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果と共に、改善計画についても意見してもらい、より良いサービスが提供できるよう努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所運営における色々な相談事項も、電話や窓口へ出向いたりして、問題解決へ向けて協力を得ている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修には毎年参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全面からオートロック式となっているが、入居者の様子に応じて開放している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会に参加したり、各々の介護の仕方についても、カンファレンス等で情報交換し、適切なケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等については、運営推進会議でも取り上げ話し合う機会を設けた。必要な時は、社協の担当者に相談したりしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ケアに関する考え方や取り組み、重度化した場合の医療との連携体制等説明し同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時は、利用者の状況を報告すると共に、要望等話を聞くようにしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを設け、意見を聴くようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の人間関係を把握したり、職員の良い所を活かし、やりがいを持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は掲示しているが、希望者も少なく計画的な研修参加はできていない。今後は、なるべく多くの職員が受講できるよう計画していきたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会にはできるだけ参加してもらい、他事業所の活動を学んだり、サービスの向上に活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族との事前面談で、生活状態を把握するよう努めている。他の事業所へも情報提供を依頼し、早く理解できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、ゆっくり聴くようにしている。必要であれば他の事業所の情報提供をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合、可能な限り柔軟な対応ができるように心がけている。他のサービス機関の情報も提供し、できるだけ早く必要なサービスが受けられるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者に寂しさがあれば励まし、不安があれば話を聴いて、不安を取り除くよう努めている。また、利用者の笑顔や温かさに触れ、元気をもらっている事が多い。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の出来事や気づきの情報共有に努め、家族と一緒に支えていけるよう心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室に行ったり、毎月決まった日に、美容院に行く習慣を続けたり、できるだけ一人ひとりの生活習慣を尊重するようにしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係については職員間でも情報交換し、全員が把握できるようにしている。心身の状態や気分の感情で毎日変化するので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方でも、病院を訪問し経過をみている。また、家族の方がホームに遊びに来られ状況を話されることもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時より情報を集め、思いや全体像の把握に努めている。言葉や表情、態度等から真意を汲み取り、思いに添った介護ができるよう、心がけている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅に訪問したり、本人や家族から詳しく生活歴を聞いている。入居後も情報収集に努め、記録に残し、職員全体が理解できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日をどのように過ごされているか、表情や心身の変化に注意して観察している。また、残存機能を活かした介助を心がけ、必要以上に手を出し過ぎないようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞いたり、毎日の関わりの中で、気づいた職員の意見や思いを、介護計画に活かしていくよう努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテで全体の状態把握ができるよう記録するとともに、一日のワークシートで、全ての職員が連携した実践ができるようしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に合わせ、急な外出や外泊、特別な医療機関の受診等、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、民生委員や地元の有識者に参加していただき、協力を得ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他希望に応じ、以前からのかかりつけ医での医療が受けられるようにしている。状態に応じて専門医の診察を受けたり、協力病院の主治医と協力し、24時間体制での対応を行っている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職3名通常のシフトに入り、日々の介護にあたっている。健康管理や状態変化に応じた支援と共に、他の職員へ専門的指導もを行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院は主治医と話し合い、最低限度の入院に努めている。協力病院とは、情報交換を密にし医師の協力を得ている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対しては、利用者の状態に応じて、本人、家族、医師、職員で充分話し合いできるだけ要望に添えるよう心がけている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム連絡協議会による、救命救急法の講習会には、交代で全職員が参加できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや言葉かけは、一人ひとりの誇りを尊重し、対応は常に注意している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて、声をかけ意思表示が困難な方は、表情を読み取ったり、反応を注意深く見るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに合わせるのではなく、入居者のペースに合わせて、無理強いせず、ゆっくりとした気持ちで自由に過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んで着用してもらったり、時にはお化粧をしたりして、毎日を、生き生き楽しく過ごしてもらうよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞きながら、一緒にメニューを考えたり、野菜の収穫、食材の買い物、調理、配膳、片付け等利用者と共に行い、食事が楽しみなものになるよう心がけている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックし記録している。利用者の状態に合わせて、量や形態(キザミ・トロミ等)を調整している。食欲が低下している時は、好きなものや食べやすいものを出すようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声をかけ見守りし、できない方は口腔ケアを介助している。義歯の方は、夜間は必ずはずし、ポリドントにて洗浄消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者に合わせて、排泄時間を記録し、トイレ誘導を行い、日中の紙パンツ、パット使用を減らし、利用者の排泄の自立に向けて支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄のチェックにより、薬の調節、水分補給などを行っている。便秘時下剤の使用、看護師による摘便などの処置を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時の利用者の体調、表情を観察し、無理強いをせず、一人ひとりが気持ち良く入浴できるように会話したり、介助をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の状態を見て、利用者に合わせ休息したり、運動をさせたりして安眠出来るようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように確認を重視し、一人ひとりの目の前で開封し服用させている。薬の処方、効能、副作用等の説明書はカルテに保管し、職員が分かるように徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に来る日常生活の仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外庭に出たり、体調に合わせて近くの観音様まで散歩に行ったりしている。希望時は、買い物にも同行し、行事として菖蒲見学、外食なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額であっても管理する事で安心感、満足感を持って頂けるよう支援している。また、多くの利用者は、事務所の預かり小遣い帳にて管理し支援してる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書が届くと喜ばれるので、返事を書く様支援している。また、電話をかけた時、かかってきた時は嬉しそうに笑顔で話をされている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く過ごして頂ける様、季節に合わせてお花を飾ったり、入居者と一緒にフロアの飾り付けをしたり工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	芝生を敷いた中庭では、緑に触れあったりベンチでゆっくりくつろがれている。玄関フロアに椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い者同士で語らいができる場所を工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真を置いたり、使い慣れた物、愛着のある物等を置き、利用者が居心地よく過ごせる様工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動出来る様、リビング他共同の場所に手摺を設置している。また、大きな字で表示したり、目印をつけ場所がわかりやすいよう工夫している。		